

# 平成30年度 社会福祉法人 梨雲福社会 事業計画

## 1. 方針

平成30年度は介護報酬の改定に伴い、国全体として予防と重度化の防止が軸となってくる。これまでも法人全体として呉羽・五福地区に根付いたサービス、地域貢献を行ってきたが、今まで以上に在宅部門からの切れ目のないサービスの提供、法人の所有する資源の利用を進めていく必要がある。

また昨年度より開始した梨雲苑の個室ユニットは順調に稼働しており、法人の経営的にも安定しつつあるが、介護報酬の改定で減算加算が生じてくる点を確実に見直し、各事業所の稼働率を維持し運営を順調に推し進めていくよう努力する。

梨雲苑、梨雲苑ゆうゆう、デイサービスさいさいと3拠点で、各事業所間で均一した一層質の高いサービスを提供できるよう、職員間での情報交換、研修の利用をすすめ、広い視野での対応、レベルアップを図っていく。

介護業界だけでなく、社会全体で慢性的な人手不足であり、介護分野ではロボットの利用などで介護者の身体的、人間的負担を減らすような試みもあるが、人手不足がサービスの低下に繋がらぬよう、働き方の見直し、魅力ある職場づくりをすすめる。

## 2. 重要事項

- (1) 地域貢献活動としてカラオケの貸し出しから波及した年2回のカラオケ大会は恒例化し認知されてきているが、今まで以上に地域の方に足を運んでいただける敷居の低い施設になるようにしたい。特にこれからは介護予防、健康保持のため、法人のパワーリハビリの機器の利用なども含め情報発信をしていく。
- (2) 特養ホームが全室個室ユニット化したことに伴い、ユニットケアを体系的に進めていく地盤が確立した。ユニットケアの根底にある精神は、高齢者の方の尊厳を保つことにあり、在宅であっても今までの暮らしを継続していくことの重要性にもつながる。在宅から施設利用へ、同じ視点で生活を継続していけるよう、介護の標準化に取り組み、各専門性を保持しながらも事業所を超えた研修、教育を行っていく。
- (3) 梨雲苑特養の全面稼働により、収益としては上向き傾向ではあるが、今回の改定により減収となる部門も予想され、一層のコスト管理が必要となってくる。法人を永続的に維持できる組織となるよう無駄を省いた適正な施設運営を行っていく。

# 事業計画

## 特別養護老人ホーム 梨雲苑

### 1. ホーム

#### (1) 方針 「暮らしを、ともに、つくる。」

「暮らす人」 ここで暮らせてよかったと思えるような暮らしができ、穏やかな日々が送れるよう支援します。

「集う人」 何度も訪れたいくなるような場所、人づくりに努めます。

「働く人」 働きたい、働き続けたい職場づくりの継続に取り組みます。

#### (2) ユニット型介護施設 目標 ホーム2階（10人単位）

(ア) さくら : 入居者、家族の思いを形にしていく。

ユニット

- ・ 記録の充実（暮らしぶりのみえる24時間の記録）
- ・ カンファレンスの充実（入居者、御家族の思いをもとにした話し合い）
- ・ 楽しみのある暮らしの継続（それぞれの趣味に応じた活動への参加）

(イ) なのはな : 1人ひとりのかけがえのない笑顔と思いを大切に安堵あるユニット生活を支援します。

- ・ 互いの人生と生きがいを尊重し支えあうコミュニティを実現します。
- ・ 豊かな人間性の育成に努めます。

(ウ) あやめ : 一人ひとりのペースで暮らしの継続を支援する。

ユニット

- ・ 安心して暮らせるゆとりのある場を提供します。
- ・ 今まで大切にしていた暮らし、生活習慣を尊重します。
- ・ 自分でできること、自分で決めることを見つけます。
- ・ 多職種一丸となり、全力で支えます。

(エ) つつじ : 入居者の思いに寄り添いそれぞれの暮らしを大切にします。  
ユニット

- ・ 安心して穏やかに過ごせる居心地の良い空間作りに努めます。
- ・ 御家族との連携を密にしその人らしく暮らせるよう支援します。

(オ) もくれん : 一人ひとりの暮らしを支えそれぞれの生活に寄り添い  
ユニット ます。

- ・ 入居者それぞれの生活リズムを、大切にします。
- ・ 心にゆとりを持てる、暮らしの場を提供します。
- ・ 入居者、御家族が、笑顔になれる「家」となります。

(カ) すずらん : 一人ひとりが共に支えあって暮らしの場を作り上げて  
ユニット いきます。

- ・ その日その時の思いを汲み、今しかない時間を大切にします。
- ・ 暮らしの中でそれぞれの楽しみを見つけます。
- ・ 入居者、御家族、職員間の情報共有をこまめに行い、入居者の暮らしをサポートします。

### (3) ユニット型介護施設 目標 ホーム1階 (10人単位)

(ア) やまぶき : 個々の思いを尊重し、その人らしい生活が送れるよう  
ユニット 支援します。

- ・ 入居者の「今」を大切にし、輝く明日に向けて常に前進する気持ちで支援します。
- ・ 「ここで暮らせて良かった」と思っていただけのような満足感、安心を届けます。

(イ) さざんか : それぞれが穏やかで、居心地の良い暮らしの場を作り  
ユニット ます。

- ・ 思いやりと優しさ、心のゆとりを持ち、安全・安心の質の高いサービスにつなげます。
- ・ 職員間で情報を細かく共有し、御家族に入居者の日々の様子や出来事を積極的に伝え、御家族との信頼関係を深めていきます。
- ・ 散歩や運動、余暇の充実に努めます。

(ウ) すみれ : 個々の暮らしにあわせた居場所を共に築いていきます。  
ユニット

- ・ 一人一人のニーズを多方面から共に探していきます。
- ・ 職員、入居者、御家族が共に暮らせる生活環境を整えていきます。
- ・ 計画・実施・評価・再計画を意識した支援に努めます。

#### (4) 看護

##### (ア) 健康管理

- ・ 入居者の健康状態を日々のバイタルチェック・観察により把握し、長く暮らし続けられるように異常の早期発見や予防に努めます。また、医師・御家族と適切な連携を取り、迅速な対応で信頼関係を築くよう努めます。
- ・ インフルエンザ、ノロウイルス、結核、食中毒など感染症の蔓延防止に努めます。
- ・ 入居者、職員の定期健診を円滑に進めます。
- ・ 褥瘡、皮膚疾患の発生リスクの予測、見極めを行い早期発見し予防に努めます。

##### (イ) 看取り看護

- ・ 入居者が最期までその人らしい生活を継続できるように、他職種への教育を充実させ、安心して頂けるようにサポートします。
- ・ カンファレンスを行い多職種と連携、協働します。
- ・ 看護師の専門性を活かして、看取りの予測される御家族に伝え、後悔のない看取りを迎えることができるよう支援します。

##### (ウ) 口腔ケア

歯科医師の指示のもと、訪問歯科衛生士の指導、助言を受け、入居者全員に対して安全かつ適正な口腔清掃と口腔リハビリを介護士と共に実施し、おいしく食べ続けられるよう経口摂取の維持向上と誤嚥性肺炎の防止に努めます。

##### (エ) 個別機能訓練

日常生活の中で入居者一人ひとりの状態に応じた個別訓練の実践を通して残存機能の維持と廃用症候群の予防に努めます。

(5) 栄養（梨雲苑・梨雲苑ゆうゆう共通）

- ・ 平成29年度より給食・厨房は委託から直営へと変わりました。7月からはさいさいの食事提供開始。さらに10月からはソフト食を開始し「常食・ソフト食・嚥下食」の3形態に変更しました。  
平成30年度も引き続きソフト食の改善と、より良い食事形態・食事内容の検討も行っていきます。そして、衛生面でも安心・安全な食事を提供します。
- ・ 食事は栄養補給の目的だけではなく生活の中の楽しみとしてとらえていただけるよう、行事食やお食事会を取り入れます。
- ・ 個人の思いに添った食事サービスの提供を目指します。

(ア) 給食管理

- ・ 衛生面でも安全・安心な食事の提供。  
（食材・食事の温度管理・品質管理）
- ・ 誤配膳のない食事提供・正確な食数管理。
- ・ 禁忌食品・アレルギー食品の把握。
- ・ 災害時または緊急時の対応。（備蓄品の確認含む）
- ・ 細やかな心遣いで盛り付け・配膳を行う。
- ・ 無駄のない食材管理。

(イ) 食事管理

- ・ 行事食・イベント食の充実、季節感あふれる食事の提供。
- ・ 入居者の個々の咀嚼・嚥下状態に合わせた食事形態の提供。
- ・ ユニットケアならではの生活感・ぬくもりのある食空間作り。  
（簡単な料理等はユニット内で調理を行い、入居者と共に家庭のような雰囲気を楽しむ）
- ・ 安全で衛生的な食環境の確立。
- ・ 嗜好調査を行い、対象者の食事に対する思いを把握し食事に反映させる。

(ウ) 栄養管理

- ・ 栄養マネジメントを的確に行い、入居者の栄養管理を実施する。  
（低栄養リスク者に対して栄養改善取り組みの推進）
- ・ 医師の指示のもと、適切な療養食を提供する。
- ・ 栄養管理を行う専門家として自己啓発に取り組む。

(6) 重要事項

(ア) 質の高い介護サービスの提供

- ・ 変化に迅速に、柔軟に、多職種の専門性を最大限に活かし、支援する。
- ・ ユニットケアについてさらに理解し、伝え、実践を継続する。
- ・ 記録ソフトを活用し個別支援の充実を図る。  
記録は、24時間の暮らしぶりがわかるもの  
24時間働く姿が見えるもの  
介護の専門性、エビデンスを示すもの
- ・ 報告・連絡・相談を密にし、より深く連携を図るとともに信頼し合える仲間（チーム）をつくる。
- ・ ユニットリーダー研修実地施設、介護実習施設としての役割を果たす。

(イ) 豊かな人材づくり

「わかりあい、感謝し、助け合おう」

- ・ 苑内勉強会、苑内外の研修参加と積極的な自己研鑽により学びを深める。
- ・ 日々の気づきや学びを周囲へ伝え支援へとつなげる。
- ・ 面会者、来苑者へ、心のこもった挨拶と温かな対応をする。
- ・ 研修生、実習生と、共に学び、成長し、出会いを大切にする。
- ・ 共に働く仲間を大切にする。
- ・ 新しい仲間を大切にする。
- ・ 誰にとっても温かいホーム、をつくる。

(ウ) 定員および目標

ホーム 定員 90人 目標 90人

## 2. 居宅介護

### 梨雲苑デイサービスセンター

#### (1) 方針

介護保険制度の趣旨に沿ってサービス提供を行い、その人らしい生活を実現できるように支援します。

利用者とその御家族から信頼される事業所を目指し、地域で選ばれる事業所になるよう努めます。

#### (2) 重要事項

##### (ア) 個別ケアへの取組み

利用者一人ひとりの視点に立ち、共感・共有を大切に日々の生活に充実感を得ていただけるサービス提供を行い、利用者・御家族・職員の笑顔をつなぐ。特に機能訓練に力を注ぎ、いつまでも元気で生き生きとした在宅生活が送れるように支援する。

##### (イ) 安定した稼働率の維持

平成30年4月からの改定内容をよく理解し、サービス提供を実施する。また、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携を密にし、地域高齢者が安心して生活していただける環境を作る。

##### (ウ) スタッフの育成

中長期を見据えた人材育成を視野に入れ、継続的な成長を図ると同時に個々が新たな役割に挑戦する。お互いを信頼できる職場づくりを目指す。

##### (エ) 情報発信

家族や地域をつなぐ方法の一つとしてホームページや広報誌を積極的に活用する。ボランティアの発掘や地域交流を大切に、地域への貢献を意識する。

##### (オ) 定員および目標 介護予防を含む

デイサービス	一般型	定員	40人	目標	40人
デイサービス	認知症型	定員	12人	目標	12人
合計		定員	52人	目標	52人

## 梨雲苑ヘルパーセンター

### (1) 方針

自立支援の視点を持って、利用者一人ひとりの生き方・暮らし方、状態やニーズに合わせて、住み慣れた地域で安心してその人らしく在宅での生活が継続できるよう支援して行きます。

### (2) 重要事項

#### (ア) サービスの適正化

- ・ 利用者または御家族と共通の認識を持ってサービス提供が行えるように丁寧に分かりやすい説明を行い、相互理解、信頼関係の構築を図る。
- ・ 職業倫理・法令遵守に基づき、介護保険制度上の適切な介護サービスの提供を行う。
- ・ 介護報酬の改定に伴い、身体介護における「自立生活支援のための見守りの援助」と生活援助における家事支援の内容について明確なサービス提供を行う。

#### (イ) サービスの体制、質の向上、統一

- ・ 常勤3名体制となり、業務分担を図り、効率の良い運営を行う。  
また、緊急性・重度化・短期利用の利用者に対して柔軟に対応して行く。
- ・ サービス提供責任者⇄登録ヘルパー間での「報・連・相」を意識して図り日々変わる利用者の状態を全体で把握する。情報の共有・送受信時には、タブレットを活用する。
- ・ ヘルパー会議での情報交換、事例検討を行い、連携を強化し課題解決を図る。必要時、マニュアルの作成を行い迷う事なくサービス提供が行って行けるように体制を整えていく。
- ・ 人材の確保に努め、身体介護のサービス提供への強化を図る。

#### (ウ) ネットワークの構築、関係機関との連携

情報収集に努め、利用者の状態把握に努める。また、担当者会議に参加し、情報交換を行い、多職種連携を図る。

## 3. 呉羽地域包括支援センター

### (1) 方針

地域住民や関係機関と共に地域の主体性や自主性に基づきながら、それぞれの地域の特性に合った地域包括ケアシステムが構築を継続的に支援する。介護予防事業においては高齢になっても生きがい・役割を持って生活できるための「場づくり」を、地域や関係機関と共に検討し、構築や継続を目指す。



## (2) 重要事項

### (ア) 介護予防

介護保険における介護予防給付だけではなく、地域に根ざした介護予防活動や集いの場づくりを推進する。そのために地域の情報を継続的に把握する。

### (イ) ネットワークづくり

地域包括ケアシステムの構築に向け、個別支援から地域課題の解決に至るための地域ケア会議を開催する。また、研修会や交流会等の開催を計画し地域住民や関係機関等とのネットワークを強化する。

### (ウ) サービス提供の適正化

ケアマネジャーをはじめとする地域の関係機関が、利用者の自立と尊厳を支えるケアマネジメントや適切なサービス提供が出来るため支援を行う。

## 4. 梨雲苑指定居宅介護支援事業所

### (1) 方針

介護・医療が必要な状態になっても、自立支援・重度化予防の視点をもってケアマネジメントを行っていく。利用者の状態や思いに耳を傾け、住み慣れた地域で安心して暮らせるように支援する。

### (2) 重要事項

(ア) 事例検討会や事業所内研修を継続的に行い、多様化する利用者に対して、スムーズに対応できるようにする。また、利用者の状態や思いを尊重しながら質の高いケアマネジメントを提供できるようにする。

(イ) 入院時には、医療、介護など多職種との情報共有を速やかに行っていく。カンファレンスや会議には積極的に参加し、利用者の状態、環境に変化があっても切れ目のない支援が受けられるように連携を図っていく。

(ウ) 居宅介護支援事業所として地域の社会資源の情報収集や地域へ情報を発信できるような場を設けていく。

## 5. 地域かがやきアドバイザー

### (1) 方針

地域包括ケアシステムの構築では、自治会や長寿会に対し地域ぐるみの介護予防活動の取り組みが課せられ、その役割はまだ何も見えず手探りの状況である。梨雲福祉会として、団体が抱える課題に対して相談できる環境づくりと、連携に努めるとともに多様な活動支援を提案していく。

## (2) 重要事項

(ア) 長寿会（町内会）に地域活動の情報収集及び提供を行い、活動を通して地域の課題や要望について相談に応じていく。

(イ) これまでの地域貢献に加えて多様な活動支援の提案や啓発を行うことで、地域の高齢者支援の意識を高めていく。

## 特別養護老人ホーム 梨雲苑ゆうゆう

### 1. ホーム

#### (1) 方針

私達は、入居者様の豊かな暮らしの継続を支援するために専門職としてのスキルアップに努めます。そして、信頼される介護職となるよう安全、安心を目指します。

#### (2) ユニット型介護施設 目標 梨雲苑ゆうゆう（10人単位）

(ア) こすもす： 明るく家庭的な雰囲気のもとで、入居者の意思を尊重し、  
ユニット 自立した生活を送っていただけるよう支援します。

(イ) すいせん： 御家族と情報を共有しながら、入居者一人ひとりがその  
ユニット 人らしい生活が送れるよう努めます。

(ウ) あじさい： 一人ひとりの個性、尊厳を大切に、入居者に寄り添う  
ユニット 介護を目指します。

(エ) なでしこ： 入居者の視点を見つめ、心を通わせ笑顔で過ごせる質の  
ユニット 高いユニットケアを目指します。

#### (3) 看護

##### (ア) 健康管理

- ・ 入居者の健康状態において、常に専門的な視野で異常の早期発見に努めます。
- ・ 感染症（インフルエンザ、ノロウイルス、結核、食中毒など）の蔓延防止に努めます。
- ・ 職員の腰痛予防に福祉機器を活用しノーリフティングに努めていきます。
- ・ 褥瘡、皮膚疾患の発生リスクの早期発見、防止に努めます。

(イ) 看取り看護

- ・ 人生の最期を苦痛なく安心してむかえられるよう、尊厳を守りつつ穏やかに過ごせるよう全力で支援します。
- ・ 看取りに関わる職員と医師、御家族と連携し対応します。

(ウ) 口腔ケア

- ・ 歯科医師の指示の元、訪問歯科衛生士の指導、助言を受け、入居者全員に対して安全で適正な口腔清掃と口腔リハビリを実施します。
- ・ 正しい口腔ケアで自立支援介護、又、経口摂取の維持向上と誤嚥性肺炎の防止に努めます。

(エ) 個別機能訓練

入居者の日常生活動作の維持、向上、その方に適した自立支援や重度化防止に積極的に取り組みます。

(4) 重要事項

(ア) チームケアの向上

入居者様の生活習慣や好みを尊重し、介護力向上を主にアセスメントに基づいた支援をします。

(イ) 多職種連携

ケアマニュアルの改善、充実、24時間シートを活用強化しエビデンスに基づいた多職種からのアプローチをしていきます。

(ウ) 職員への教育、指導

- ・ ユニットリーダーを中心に物品管理、無駄をなくす為の努力をします。また、プロとしての支援技術を身につけ働きやすい職場環境に努めます。
- ・ 一人ひとりが問題意識を持ち全力で個人目標の達成に向けて努力します。

(エ) 定員および目標

梨雲苑ゆうゆう	定員	40人	目標	40人
合計	定員	40人	目標	40人

## 2. 居宅介護

### 梨雲苑ゆうゆうデイサービスセンター

#### (1) 方針

- ・ 本人の想いに十分な配慮を払い、個々のニーズに合わせた支援を行う。
- ・ 御家族とスタッフとの協力関係の維持。
- ・ 常に自己点検し、仲間の立場に立ったサービスの提供を実践する。
- ・ スタッフの健康と安全

#### (2) 重要事項

##### (ア) 個別ケアへの取組み

個別ケアは一人ひとりの問題解決のためにあり、心に寄り添い、声掛けをし、結果としてその方に合ったアクティビティを提供していく。

##### (イ) スタッフの育成

お互いを尊重し、スタッフのモチベーション、結束力を高め、ストレスの生じない働きやすい職場環境を整えると共に、勉強会や外部研修への積極的な参加を促し個々の知識、経験の向上を図る。

##### (ウ) 家族・地域との信頼関係の構築

地域の方々の理解を深めるには、施設を知ってもらうことが不可欠である。今後、地域生活への移行を展開する上で地域の連携をより一層深めていく必要があるため、地域への積極的な情報の提供や広報活動を進めていく。

##### (エ) 定員および目標 介護予防を含む

デイサービス	一般型	定員	40人	目標	38人
合計		定員	40人	目標	38人

### 特別養護老人ホーム 梨雲苑ゆうゆう 短期入所

#### (1) 方針

個人のプライバシーが守れる『個室』と他者との交流を持つことが出来る『居間』にて共同生活を送って頂き、その中でも一人ひとりの個性や生活リズムに応じた生活を尊重し自立支援を促します。  
また、有する能力に応じた日常生活を営む為に、必要なサービス提供や尊厳と自立を支えるケアを実践することで重度化防止にも繋げていきます。

## (2) 重要事項

- (ア) 利用者が意思決定できる環境づくりとその人らしく幸せな暮らしの実現を支援します。
- (イ) 御家族や介護支援専門員と連携を持ち、情報共有や情報交換に努め、適切かつ迅速なサービス提供を行います。
- (ウ) 職員は介護ニーズの複雑化、多様化、高度化に対応し、利用者や御家族のエンパワメントを重視した支援を心がけます。
- (エ) 『介護 医療 福祉』の連携を大切にし、地域の皆様のニーズに沿ったサービス提供が包括的に出来る様に努めます。

## (3) 定員および目標

ユニット型個室 定員 40人 目標 38人

## (4) ユニット型短期入所 目標 梨雲苑ゆうゆう（10人単位）

(ア) かえで : 「和衷共済」  
ユニット

- ・ 利用者、御家族のニーズに応え、自立支援に努め、自宅とゆうゆうでの生活を繋ぎます。
- ・ 利用者のライフスタイルを尊重し、互いの繋がりを感じる事の出来るくつろぎの場を提供します。
- ・ QOLとADLの維持や向上に繋がる様に職員一人ひとりが自己研鑽に励みます。

(イ) ひいらぎ : 「自立を支える」  
ユニット

- ・ 利用者や御家族が“ほっ”と一息をつける様な安らぎの場を提供しながら、大切な“家族”をお守りします。
- ・ 多職種連携を図り、情報共有を密にし、どの様なニーズにも対応します。
- ・ 利用者への身体的な自立だけでなく、精神面での自立も支援し、利用者から“また会いたい”と思われる様な職員を目指します。

(ウ) くちなし： 「ありのままに自分らしく」

ユニット

- ・ 自分らしく楽しい日常生活を過ごしていただくために、利用者のありのままを受け止め、真心でお返しします。
- ・ 尊厳と自立を支えるケアを実践します。
- ・ 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、利用者・御家族のエンパワメントを重視した支援を実践します。

(エ) はなみずき： 「その方の尊厳を保つ」

ユニット

- ・ 一人ひとりに合った支援を行い、残存機能の維持に努めます。
- ・ 楽しんで過ごして頂ける様に気遣いや心遣いにて寄り添う介護に努めます。
- ・ 専門職として自覚を持ち、自己研鑽に努めます。

### 3. 梨雲苑ゆうゆう指定居宅介護支援事業所

#### (1) 方針

要介護状態や医療が必要な状態であっても、自身の意思決定が尊重され、生きがいをもった在宅生活が継続できるように支援する。

ケアプラン作成においては、御本人、御家族の意向を最大限に活かし、介護保険サービスだけでなく、地域の社会資源も取り入れ、住み慣れた地域全体で支えるしくみづくりを目指す。

#### (2) 重要事項

(ア) 重度者や平時の療養生活に加え、入退院による状態の変化があっても不安なく在宅生活が継続できるように医療と介護の連携の強化を図る。

(イ) 各介護事業所やサービス、社会資源の特色や機能を把握し、幅広い選択肢の中から御本人に合ったサービスを提案する。

(ウ) 特定事業所Ⅱとして積極的に研修に参加し、学んだ内容を共有することで事業所内のケアマネジメントの質を高めていく。

#### 4. 事業所内託児所（ゆうゆうガーデン）

##### (1) 方針

個々の発達を成長のあかしと受け止めていけるよう発達のプロセスを考慮したり接し方を具体的にし、保育について共通の見通しを持てるようにする。

##### (2) 重要事項

(ア) 安全な教育・保育環境を確保するため、ヒヤリハットの周知をしていきたい。そのため子どもの年齢、場所、活動内容に留意し、事故の発生防止に取り組む。

(イ) 活発に体を動かして遊ぶことが多くなっているため、1人1人の発達にかなった環境を整えいろいろな姿勢での遊びに繋がるように支援する。

(ウ) 外部からの読み聞かせ等の交流の場を設ける。

##### (エ) 定員と目標

- ・ 乳児、幼児3人につき保育に従事する者1人。
- ・ 1,2歳児、幼児6人につき保育に従事する者1人。

#### でいさーびす さいさい

##### 1. 居宅介護

#### でいさーびす さいさい

##### (1) 方針

これまでの地域密着型通所介護事業所として培った実績を活かし、固定観念にとらわれず、何事にも積極的に取り組み地域に貢献できる事業所を目指します。サービス利用により、明るく安全に充実した在宅生活を継続していただけるよう支援します。

##### (2) 重要事項

##### (ア) 個別ケアへの取り組み

- ・ 接遇や認知症対応について取り組み、そこから得た知識や情報を個別援助計画へ反映させ、職員全体で利用者の在宅生活を支援する。
- ・ 定期的にアンケートを行い、利用者一人ひとりのニーズを把握し個々の状態に合った対応を行い、利用者中心で本人の意思を尊重した関わりを行う。

##### (イ) スタッフのスキルアップ

- ・ 職員研修への参加を積極的に行い、研修で得た知識を職員全体でしっかり話し合いの出来る環境を整え、職員スキルの向上や信頼関係を養う。
- ・ 業務分担を見直し、業務の改善を行い一人一人が目標をもち、課題分析に取り組み成果に繋がれる環境を作る。

(ウ) 介護予防サービスの見直し

- ・ 法人の理学療法士と連携をとり、機能訓練の充実を図り、利用者が自発的に生活機能の向上を考えていけるよう支援していく。
- ・ 職員が一定の介護力を身に着け同じ方向性で介護予防を考え、利用者の目的や目標を引き出せるよう支援する。

(エ) 地域貢献活動

- ・ 事業所の企画に、地域の方が気軽に参加出来るようホームページなどを活用し情報の発信を行なう。
- ・ 地域活動に積極的に参加し、地域の方々との距離を縮め、職員が地域の顔になれるよう努める。
- ・ 地域の方によるボランティアなどを、受け入れていける流れを確立させ、地域の方がさいさいに足を運んで頂けるよう努める。

(オ) 定員および目標

定員 18人                      目標 一日平均 14人

2. さいさい居宅介護支援事業所

(1) 方針

住み慣れた地域で安心して生活ができるよう介護、医療が連携を図り支援するとともに自立支援、状態の悪化防止を促進する。  
行政機関とも密に連携を図り、質の高いケアマネジメントの推進を図る。

(2) 重要事項

- (ア) 地域包括支援センターや地域の居宅介護支援事業所と協働し、地域で生活できるよう具体的な支援体制作り、ケアマネジャーの資質向上に取り組む。
- ・ 事例検討会や研修会を実施し、地域のケアマネジメント機能の向上を図る。
  - ・ フォーマルサービス、インフォーマルサービスの情報交換、共有を行うため同法人や他法人の事業所のケアマネジャーとの交流を図る。

(イ) 家族や地域の方との交流会の開催を実施。

地域の方、利用者御家族向けの介護保険制度の紹介を含め地域で生活を続けるための交流会や情報交換会の開催、介護予防に繋がる勉強会の開催。

(ウ) 平時から医療との連携を強化し、最期まで住み慣れた自宅で生活できるよう事業所内で支援体制を構築。

利用者の情報を共有し、他ケアマネジャーでも迅速に対応できる体制作り。